

# 夢 塾 だ よ り

## ～ 新年の読書から ～

(第66号) 令和5年1月25日

『賢者の書』という喜多川泰さんの本を読みました。ストーリーは少年「サイド」が厳しい道のりを乗り越えて8人の賢者を次々に訪ねて教えを乞い、それらを実践すれば最高の賢者になれるという話です。やっとの思いで逢えた賢者が一つずつサイドに示唆を与えます。その賢者の教えの一つは、

『職業感』・・・人生における成功を、何になるかに求める人は多い。しかし、これになれたら成功、幸せなどという職業は存在しない。なぜなら成功は職業についてくるものではなく、人についてくるものだからだ。大切なのは何になりたいかではなく、どんな人間になりたいかなのだ。二つは、

『今を生きること』・・・成功する人間というのは、決して過去に生きたり、未来に生きたりしているのではない。今日一日を成功するに足りる人間として、精一杯生きているのだよ。大切なのは昨日までの人生と、明日からの人生に心をとらわれることなく、今日一日に集中して生きるということなのだ。三つは、

『言葉』・・・人生は言葉によってつくられている。その人に起こるすべての出来事は、その人が発したり、心の中で思い描いたりする言葉に起因する当然の結果にすぎない。とにかくすべてに対して「ありがとう」といえる生き方をすること。これが、今日一日、自分だけでなく自分の周りにいる人をも幸せにする方法であり、つまりは自分を含めた多くの人生をこの上なく素晴らしいものにする方法である。賢者といわれる者は、このことをよく知り、誰よりも多くの「ありがとう」を口にする人なのだ。

こんなふうに、一人の賢者は一つのことを少年サイドに語りかける。・・・とまあ、8人の賢者がそれぞれに素晴らしいことを教えていきます。



ここまでで十分納得させられますが、さて、最高の賢者になるにはどうすればいいのでしょうか？最高の賢者は誰だったのでしょうか？

ここが最大の落ちです。

最高の賢者とは・・・誰よりも多くの人からいろいろなことを学べる素直な心を持つ人だったのです。真の学ぶ姿勢のある者にとっては、世の中のあらゆる人が師となりうるのです。教えた側が賢者ではなく、学んだ側が賢者だったのです。サイド少年こそ最高の賢者だったのです。

私たちも、自分以外は「師」であるという謙虚で素直な心で生きていけたらいいですね。